

出るめを度々切さるべし、又一種あり、たけひきく、穂の少し下の方より、くきかゝむあり、此黍實多く早熟す、是上種とすべし、又一種玉蜀黍なんばんまきと云あり、種る法前に同じ、其粒玉のごとし、菓子にすべし、是も早くうゆるをよしとす、遅ければ風難あり、且實りも少し、是又肥地を好む、瘠地には實す、根より出るひこばへを去事前に同じ、

〔王氏農書二十八、穀譜集、葛黍

葛黍春月種、宜用下地、莖高丈餘、穗大如帚、其粒黑如漆、如蛤眼、熟時收刈、成束攢而立之、其子作米、可食、餘及牛馬、又可濟荒、其稍筵、可作洗帚、稽稈、可以織箔、夾籬、供爨、無有棄者、亦濟世之一穀、農家不可闕也、

〔重修本草綱目啓蒙十七〕蜀黍 〇。〇。京 〇。〇。東國 〇。〇。タカキビ 〇。四國 〇。〇。タチギミ津

輕 〇。〇。肥前 〇。〇。ホキビ 〇。〇。加州 〇。〇。中國 〇。〇。越後 〇。〇。セノタガキビ 〇。〇。同上 一名蘆穀泉州府志

秫山東通志 蘆稷品字 穠秫同上 薯黍撫州府志 瓜龍群芳譜、根名ナリ、此書誤テ稷ノ附方ニ入

島ノ旁ニ多ク栽ユ、高サ一丈許、莖粗ク葉長大ニシテ、互生ス、夏ニ至リ莖梢ニ穂ヲ出ス、長サ一尺餘、枝ヲ分チ多ク花ヲ生ジ、後實ヲ結ブ、形圓ニシテ皮赤シ、磨シ麵ニシ餅トナシ食フ、一種三尺キビハ、高サ三尺許ニスギズ、三尺モロコシトモ云、又ナガモロコシ、ムラサキモロコシ、ハダカモロコシ、カキハダカ、シヤクナガモロコシ、オホモロコシ、ウルチモロコシ、モチモロコシ、白モロコシ等ノ品類アリ、又甲州豆州ニカギモロコシト呼ブモノアリ、ソノ穂曲リ垂テ鉤ノ如シ、本經逢原ニ、蘆粟穂曲下垂如鉤者良ト云リ、

〔本朝世事談綺二〕蜀黍

中世中華よりわたる黍の類也、關東にてはもろこしきびといふ、珍物はじめて渡るに、その名をまらす、よつて唐の字を加へて呼也、唐胡摩唐芥子唐柿などの類也、